附まで絶止したるを始めとして他の劇場も劇界に借したれ
ば大体四年前年は二回開催して何れも入場料を取り
たるを以て常に相当の收入を得たる模様なり）
入場料——初期に於ては從來演説会は入場料を
取る慣習なきを以て無料演中に於ても常に十錢乃至二十
錢の入場料を徴したり。此の結果は諸雑費を支拂ひても
相当の收入ありしは何れも年議募用に充
てたり。
弁士——吳川豊彦、久富弘三、木村鍵吉、
柴田為吉（旧川崎工）行政長蔵（同上）其の他
毎回十数名
場内の秩序——常に聴衆熱狂し、相手嘲罵の聲
を探らせの屢と起り場気旺盛なり。殊に過激なる言辞
を弄しぬ爪あり、官憲の態度を痛撃するに始め、此
如き事は数十回の演説に於て大常に見るありき
行據は一回も起らざりし。
官憲の態度——場の内外に数十名の巡査を配置
し物々しき警戒振りを見せたり。場内には多数の私服
を聴衆中に混入せしめ、又演壇の傍には二三名の警
官ありて要領を筆記せり。二十回の演説には古賀の柵格書
と称する速記者を以て速記せしめ一字一句も洩
さず筆記せしめ居たり。弁士に対しては大係を干渉
すれ「時に注意」「中止」を命ずるのみ、されど過激なる
言辞を弄したるもの終る時を出さず際檢束せられた

財團法人 協調會